

2021.Jul./Aug.

みんなで作る、未来へつなぐ。あふれる笑顔、びらとり。

No.706



広報びらとり 7.8

Biratori Town Public Relations Magazine



新規就農

新規就農支援制度

令和3年度の町政執行方針で示された新規就農支援制度に基づく、農業研修生4戸が4月から平取町に移住し、各受入れ農家さんののもとで自立をめざした研修を積み重ねていきますので紹介します。

武田農園（去場）

武田農園でお世話になって

いるのは、札幌市から移住してきた石黒剛さん・英子さんご夫妻。
今までは民間会社に勤めていましたが、「自営の方がやりがいがあり、定年もなく、体さえ丈夫であれば働き続けることができる」との思いから新規就農を決意。さらに、「平取町は研修者への支援が他の自治体よりも良く、新規就農後もJAなどと連携しながら安心して農業に取り組むことができる」とも決め手になったとのこと。剛さん自身は、トマトジュースが苦手

自立をめざして！

で飲むことができなかったのに、「ニシパの恋人」はおいしく感じ、苦手を克服できたそうです。

そんな苦手を克服させてくれたトマトの栽培にやりがいを感じ、一日でも早く先輩たち



武田農園ご夫妻（左）と石黒剛さん・英子さん（右）

受入れ農家の武田さんにも「石黒さんはきちんとメモして、データにしている。今までの仕事を活かした農業をできるのではないか」と期待している様子でした。

垂柳農園（苜蓿）

苜蓿の垂柳農園で研修生を受入れていただいたのは、東京から移住してきた池内明彦さん・友紀さん。

明彦さんは滋賀県庁職員として東京で勤務していたのですが、これまで積み上げてきた経験をさらに活かしたいとの思いから退職を決断。自問自答した結果、新規就農はやる気と適切な研修、支援があれば可能と思いい、平取町の新規就農に辿り着いたとのこと。北海道は何度も訪れた地であり、憧れの大地。平取町の新規就農者は、前向きな姿、生き生きとした表情という印象から、「就農地はここしかない」と判断したそうです。研修を始めたころは、筋肉



池内明彦さん・友紀さん（手前）と垂柳農園ご夫妻（奥）

と。新規就農者としては「退職までして来たので、中途半端な気持ちではできない。保育所に通う子供が小学生になるまでには就農し、びらとりトマトの平均単価を超えられるよう努力したい。」と目標を語ってくれました。その目標を聞いた受入れ農家の垂柳さんからは、「研修生はみんな一生懸命で、成績もいい。今後、受入れ農家以上の結果を出してくれることが、何よりの恩返し」とさりげなく話してたのが印象的でした。

赤石農園（苜蓿）

苜蓿の赤石農園で研修をしているのは、隣の日高町富川から移住を決意した花田李之さん・真紀さん。

李之さんはこれまで競走馬の長距離輸送の仕事で約18年続けてきたそうです。しかし、1年のほとんどを留守にするため、「家族と一緒にいたい」との思いが募り、50歳を過ぎて新規就農を決意。びらとりトマトが有名であること、美味しいこと、そして



花田李之さん・真紀さん（左）と赤石農園ご夫妻（右）

てトマト農家さんが安定した生活をしていることなど、調べれば調べるほど、就農への気持ちが強くなり、子供たちも大賛成で背中を押してくれたことが何よりも決め手になったようです。しかし、実際にものを育てること自体が初めての李之さんにとって、育苗も温度管理も何もかもが初めて。改めて、農家の大変を身に染みて感じ、3カ月で体重が10kgも落ちたそうです。しかし、そんな中でも今年中にたくさんのことを覚え、「自分の判断は間違っ

なかった」という結果を出し、夫婦で力を合わせて頑張りたいと語ってくれました。永年農業に携わってきた赤石農園のご夫妻も、「自分たちがトマトを始めた時も夜19時前に帰ったことがないくらい苦労した。」と言いい、研修生を受け入れた以上、一人前の就農者に育てるべく優しいまなざしで応援しているようでした。

渡邊農園（振内町）

平取町振内町の渡邊農園で研修をしているのは、神奈川県横浜市から移住した平松隆大さん・涼子さん。

平松さんご夫婦は、仕事と家事、育児をバランスよく実現できるのが農家ではないかと強く感じ、平取町での新規就農をめざしたそうです。「自分たちがめざす農業は、トマトの栽培状況の細やかな観察・管理と、綿密な経営計画の立案・見直しによる安定した経営。そのために、研修期間中は確認や記録するポイントや必要とする技術を積極的に渡邊さんはじ



渡邊農園ご夫妻（左）と平松隆大さん・涼子さん（右）

め新規就農の先輩さんから教えを乞いたいと非常に前向きな姿勢を感じました。また、できるだけ地域行事やイベントにも積極的に参加し、早く地域に溶け込みながら、安全、安心かつ美味しいトマトの生産を少しでも早く軌道に乗せた農業経営を目指したいとして、緻密なスケジュールを建てているのも印象的でした。

受入れ農家さん、研修生のみなさん、お忙しいなか、取材協力ありがとうございます。ご活躍を祈念します。



登口真理さん（手前）と糸屋新一朗さんご夫妻（奥）真ん中は日高町から手伝いに来ていたネパール人

広報4月号（No.703号）の「まちのひろば」で紹介した地域おこし協力隊の登口真理さん。農業支援員として着任し、岩知志の農業を営む糸屋新一朗さんに活動をサポートしていただきながら、農業に必要な知識や技術を学んでいます。着任して早4カ月、最近の活動状況などについて、お話をうかがってみました。

登口さんは札幌市出身。子供のころ、父親の出身地が平取町であることから、何度か祖父の畑を手伝ううちに農業に興味を持ちました。札幌では食品会社に勤務し、調理師の免許も持っていることから、農業の基本を学び、食品に関する仕事にも関わりたいとして協力隊に着任。糸屋さんは、「一人だけでは大変だが、仲間を作って法人化するなどすれば就農も可能」として、奥さんとともに登口さんをサポート。協力隊の任期は1年更新で、最大3年まで。今後の活動状況について、広報でお知らせしていくことにしました。

登口真理の活動日誌

●きっかけ

去年の10月頃、札幌で平取トマトのイベントがあって、就農に関する相談会もやっていたので話を聞きに行きました。もともと農業に興味がありましたし、コロナで仕事も減り、将来への不安から、地に足のついた仕事がしたいなと思っていました。

●趣味

B'zが好きでよく聴きます。ライブにも何度か行きました。あとは、食品を加工するのも好きです。今の時期だと、梅ジュースとか紫蘇ジュースですね。冬はニシン漬けとか飯寿司を作ります。

●平取町（振内町）の印象

毎日、何かしらの動物に遭遇できるので、楽しいです。めっちゃテンション上がります。

●将来の夢

トマトや野菜はもちろんですが、果物作りも興味ありますね。振内で果物作ってる農家ってあまりいないと思うので（たぶん気候的に難しい・手間がかかる）。動物も飼いたいです。

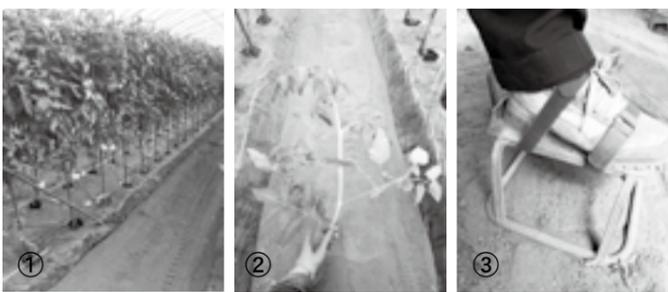
【7月】

12日(月) 3月に植えた苗がこんな感じになっています(①)。上は芯を切って止めるので、ワキ芽がすごいです。

13日(火) 今日はずっと芽かき(ワキ芽をとる作業)でした。ワキ芽を放っておくと、こんなに伸びてしまいます(②)。

通常は短いうちに採るんですが、収穫量が増えるにつれ、だんだんと暇がなくてジャングルのようになるそうです。芽かきは大変だけど、大事な仕事です。

16日(金) 高いところは手が届かないので、これを履いて作業します(③)。15~20cmほどでしょうか。バランスを崩すと危ないので、慎重に歩いています。



6月15日(火)、選択科目「フードデザイン」を受講している平取高校3年生7名が、香田農園(紫雲古津)を訪れ、香田文雄さんからトマトの収穫や定植の指導を受けました。香田農園での農業体験は今年で11年目を迎えますが、その理由をうかがうと、「平取高校が地域に残れるよう、魅力ある高校、地域に根差した高校となるため協力したい」と即答されました。



後列左から、坂口夢沙志くん・西内大翔くん・水谷颯馬くん、前田拓海くん、三浦風歌さん、山崎里華さん、中山晴菜さん
前列左から、岡田実希子教諭、香田文雄さん

農業体験前には、生徒一人ひとりが事前に与えられたワードについて発表することになっており、この日も「地産地消」「フードマイレージ」「TPP」「パーチャルウォーター」「フードロス(食品ロス)」「環境保全型農業」「MOTTA IN AI」について、それぞれ自分で調べたことを発表していました。また、香田さんからも新たに「SDGs(持続可能な開発目標)」についてお話があり、そのロゴマークに使用され



ている17色のアイコンについて詳細に調べてみるように新たな課題も提案されました。トマトの収穫作業では、赤く色づいたトマトを親指でポキッと折ったあと、一つひとつのトマトが傷つかないようにヘタ部分を剪定することや、高さ20cmほどに伸びた苗を丁寧に定植することができました。

ひととりの作業を終えた生徒さんたちは、「トマトの苗を植える体験をして大変でした。この作業を行なうことで、おいしいトマトが食べられることを学びました。」(中山さん)、「私の家も農家ですが収穫はやったことがなかったため、今回体験できて楽しかった。」(三浦さん)、「人生の中で一番楽しい体験でした。」(前田さん)、「自分の家も農家で、久しぶりに収穫を行なったが楽しかった。」(水谷さん)、「初めての収穫体験だったので緊張しました。良い経験になりました。」(西内さん)、「祖父の家では家庭園をしていたので、今回の体験を生かしたいと思います。」(坂口さん)などの感想とお礼を香田さんに述べ、この日のフードデザインを終えました。

7/10 1st penguin cup ファーストペンギンカップ

7月10日(土)・11日(日)の二日間、平取町振内町でファーストペンギンカップが開催されました。主催者である「ちびっ子チャレンジャープロジェクト」の代表である福士康弘氏(日高町)に大会の趣旨を伺うと、「ファーストペンギン」の海へ魚を求め、最初にも飛び込む1羽のペンギンに、ちびっ子たちにも失敗を恐れず、まざままに「勇気」をもらいたい」との思いから名前を付けて、大会を開催しているとのこと。大会参加者は2歳から9歳までの子供が対象で、この日も遠く道東・北から泊りがけで参加する親子も多く見受けられ、地元の有志が町の特産品をたくさん準備して大会を支えていました。



7/19 北海道中学校体育大会 出場選手激励会

7月27日(火)から8月1日(日)にかけて開催された中体連全道大会に4種目(陸上、柔道、バドミントン、剣道)に14人の選手が出場しました。7月19日(土)に、市民館で激励会が行われ、平取市長谷川が激励の言葉を述べ、各校代表が活躍を誓いました。



7/9 旭日双光章 受章

5月9日(日)に逝去された平取町議会議員の藤沢佳宏氏(荷負)に対し、国から叙位叙勲 従六位旭日双光章が授与され、7月9日(金)に自宅にて伝達式が行われました。

7/16 人権教室実施校表彰 ・人権教室開催

7月16日(金)、人権教室を継続的に5年間実施したことに表彰している平取町小学校に対して、札幌法務局から感謝状が贈呈されました。また、そのあと平取町の人権擁護委員による「人権教室」を4年生児童を対象に実施しました。テーマは「いじめ」について。はじめは「絶対に良くない」と、フランスの国旗の青色は「自由」、白色は「平等」、赤色は「一人ひとり大切に」という意味が込められていたことなどを学びました。人権擁護委員の皆さま、お疲れさまでした!



7/3 「アイヌ文化拠点交流促進バス運行事業」



アイヌ政策推進交付金を活用した「セタブクサ号」で行く二風谷コタン(平取町)・ウポポイ(白老町)を巡る旅の運行が7月3日(土)から始まりました。初日は札幌駅北口を出発後、次の乗車場である新千歳空港で遠藤桂一町長はじめ関係者と乗客を含めたオーブンングセレモニーが行われ、その後、ウポポイに向け出発。二風谷コタンへは午後2時から4時半までの滞在で、自由散策、コタンガイド、びらとり温泉などを希望できる。1日1便、10月17日(日)までの土・日・祝日(9月23日を除く)に運行し、町としては夏から秋にかけての観光シーズン中に二風谷への観光客を期待している。

7/4

劇団パトスバック 『永遠の矢トワノアイ』

俳優の宇梶剛士さんが主宰する劇団パトスバック(東京)の『永遠の矢トワノアイ』が、7月4日(日)に平取町中央公民館で上演されました。この作品はアイヌ民族としてのルーツをもつ宇梶さん自身が作・演出された物語で、東京生まれの主人公とその家族を通して、アイヌ民族のルーツや抑圧の歴史を表現したもので、アイヌ政策推進交付金を活用して、会場内には約200名の方が鑑賞に訪れ、「平取でやって良かった」「平取の良い内容だった」「平取に住んでいてもアイヌ文化に触れることが少なかった」「現在と過去を取り入れていて、深い歴史の上にながらあることがわかった」「北海道に住む日本人として、しっかりアイヌのことを理解すべきと感じた」「一人でも多くの人に観てほしい内容だった」「本当の劇を観たのは初めてで、アイヌのことを自分事と考えさせられた」「高校で演劇部に入っているので、照明、音響、演者すべてが勉強になった」など、多くの感想が寄せられました。



7/7 「社会を明るくする運動」街頭啓発パレード



7月6日(火)、「社会を明るくする運動」街頭啓発パレードが実施されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、町長室で内閣総理大臣からのメッセージ伝達式を行い、その後、パレードが行われました。

平取町内小学校で運動会を開催！

6月に町内5つの小学校で、(雨天のため、延期になった学校もありましたが)2年ぶりに運動会が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策のため、種目を縮減、参観者も制限して、午前日程の実施となりました。2週間程の練習を通して、がんばり続けた子どもたち。その練習の成果を本番では、全力で発揮することができました。

初めての運動会を通して一回りたくましくなった1・2年生、見事な力強さを見せてくれた6年生、全校のみんなが大きく成長した姿を見せてくれました。最後までやりきった自信と、身についた力を、これからの生活や学習の中でさらに生かしていったほしいと願っています。



「あきらめず 全力をふりしぼれ！」
(貫気別小)



「力を合わせ、めざせ最高の笑顔！」
(二風谷小)



「みんなで協力！悔いのない運動会！」
(振内小)



「仲間たちと協力して、最後まで楽しく全力を出し切ろう」(紫雲古津小)



「勝利をつかめ、協力！全力！笑顔！」
(平取小)

平取町学校運営協議会

令和3年度学校運営協議会・地域学校協働本部合同研修会

6月25日(金)、平取町中央公民館を拠点とし、町内の小中学校7校や個人の参加者へオンライン会議システムを利用した平取町学校運営協議会・平取町地域学校協働本部合同研修会が実施されました。

日高教育局社会教育指導班主査の石山浩幸氏からは「地域と学校が一層連携・協働していく必要性」について説明がありました。その後、社会教育係から「今年度町が取り組む3つの施策」について説明しました。

今年度の施策は、次の3点です。

- ① コミュニティ・スクールの知見を広げるための研修会を行う。
- ② 地域と学校がお互いを理解するための「思いやり熟議」を行う。
- ③ 広報びらとりに地域と学校が協働している様子について掲載する。

早速、今回は紫雲古津小学校を掲載します。他の6校については、次回以降2校ずつ掲載していきます。



紫雲古津小学校

～春の野草観察～



本校の「春の野草観察」は、全校での活動であり、紫雲古津小学校の裏山へ出かけ、春の生き物や野草を観察する自然体験学習です。今回は、貝澤守さん、加藤拓夫さん、原田祥吾さん(いずれも二風谷)、平村太幹さん(本町)の4名の講師が来られ、4班の縦割り班に分かれ、生き物や野草について教えていただきました。山道では、滑りやすい坂もあり、特に1年生は、講師や先生、高学年の児童に助けってもらいながら目的の地まで歩くことができました。子どもたちは、ふきやニリンソウ、トリカブト、サンショウウオのたまごなどを見つけ、自然と親しみながらたくさんさんのことを学ぶことができました。

秋にも野草観察があり、春と秋の様子を比べながら観察し、学校の周りの自然に触れていきます。

実は知らないことだらけ!? 「中国文化にふれよう」を開催しました!

7月13日(火)、成人文化講座「中国文化にふれよう」を中央公民館で開催しました。当事業は、町民の方から「中国人研修生向けの日本語教室などは行っているが、町の受入れとして私たちが中国のことを学ぶ機会があったらいいのでは?」という意見があり開催しました。当日は、対面12人、オンライン4人の参加がありました。

講師の川奈野浩林氏(野菜)は、ご自身の体験談を交えながら中国の歴史や食文化、語学などについて説明を行い、「まちにも、たくさん中国人がいるので、積極的に関わっていただければうれしい」などと話しておりました。参加者からは「中国文化について、もっと知りたくなった」、「ぜひ次回も開催してほしい」などといった反響があり、継続した開催を求める声も多くなりました。



図書館へいこう

○開館時間 火～金曜日 9:30～18:00

土・日曜日 9:30～17:00

○休館日 月曜日・祝日

※月曜日が祝日の場合は、その翌日も休館



新着図書

【小説・エッセイ】

- 『仮面』／伊岡瞬
- 『遠（とおく）の巷説百物語』／京極夏彦
- 『神よ憐みたまえ』／小池真理子
- 『婿どの相逢席』／西條奈加
- 『出紋と花かんざし』／佐伯泰英
- 『君と歩いた青春』／小路幸也
- 『長い一日』／滝口悠生
- 『あなたにオススメの』／本谷有希子
- 『未来のサイズ』／俵万智
- 『深夜薬局』／福田智弘

【児童書】

- 『ランベシカ』／菅野雪虫
- 『プラスチックモンスターをやっつけよう！』／高田秀重
- 『万葉と令和をつなぐアキアカネ』／山口進
- 『自分のミライの見つけ方』／児美川孝一郎

【医学・社会・その他】

- 『依存症がわかる本』／松本俊彦
- 『海外ルーツの子ども支援』／田中宝紀
- 『事実婚と夫婦別性の社会学』／阪井裕一郎
- 『小林カツ代の伝説のレシピ』／小林カツ代、本田明子
- 『型紙いらずの着物リメイク〈ワードローブ〉』／松下純子
- 『はじめての今さら聞けないインスタグラム』／吉岡豊
- 『雅楽のひみつ』／日本雅楽會
- 『ぼくのお父さん』／矢部太郎
- 『夏井いつきの俳句道場』／夏井いつき

【絵本】

- 『あんなにあんなに』／ヨシタケシンスケ
- 『いろいろかえる』／きくちちき
- 『お化けの猛暑日』／川端誠
- 『せんろをまもる！ドクターイエロー』／鎌田歩
- 『もしものくに』／馬場のぼる

※ 図書ワゴン運行予定 ※

9月2日（木）

【振内地区】10:00～12:00 山の駅ほろしり館

【貫気別地区】14:00～16:00 貫気別生活館

■ 貸出期間は次回の巡回日までになります。

■ 毎月第一木曜日に運行します。



図書館カレンダー

8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

■ は休館日です

● 展示のお知らせ ●

「北海道青少年のための200冊」を展示しています。幼児／小学生低・中・高学年／中学生／高校生と年代別に選定されていて、学年に合った図書を選びやすいのが特徴です。展示している図書は貸出もできます。読書感想文の課題図書などにもおすすめです！

■ 期間：～8月31日（火）まで

■ 場所：図書館カウンター前

オンライン予約ができます！

下のQRコードを読み込んでください。ログインパスワードは図書館のカウンターで発行しています。

【お問い合わせ】 平取町立図書館

電話 01457-4-6666

FAX 01457-4-6871

メール risu2@guitar.ocn.ne.jp



すこやかだより

保健福祉課からのお知らせ

熱中症にご注意ください！

8月になり、気温も高くなってまいりました。毎年6月から9月の気温が高い時期には、全国で4万人以上が熱中症により、救急搬送されています。暑さの厳しくなるこれからの時期は、熱中症に対する注意が必要です。

熱中症とは

熱中症とは、体温が上がり、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなることで、様々な症状を引き起こす病気です。



体重に占める水分の割合が2%失われると、のどの渇きを感じ、運動能力が低下しはじめます。3%失われると、強いのだの渇き、ぼんやり、食欲不振などの症状がおり、4～5%になると、疲労感や頭痛、めまいなどの脱水症状があらわれます。そして、10%以上になると、死にいたることもあります。

「高齢者」や「子ども」は特に注意が必要！

体の水分量の割合が低いほど、熱中症の初期段階である脱水症にかかりやすくなります。体重に占める水分の割合は、成人が約60%であるのに対し、高齢者は約50%と少ないため、成人と比べて高齢者は熱中症のリスクが高くなっています。さらに、高齢者は暑さや水分不足に対する感覚機能の低下や暑さに対する体の調整機能の低下が生じるため、特に注意が必要です。

また、子どもは体の水分の割合が約70%と、大人よりも高いのですが、細胞外液という体外に出やすい水分が大人よりも多くの割合を占めているため、脱水のリスクが高くなっています。さらに、新陳代謝が活発であるため、出ていく水分の量も多く、特に注意が必要です。



熱中症には誰もが注意する必要がありますが、その中でも特に、高齢者や子どもは注意が必要となります。

熱中症予防のために

熱中症を予防するために、「暑さを避ける」「こまめに水分補給をする」ということが大切です。高齢者の熱中症は半数以上が自宅で発生しています。室内でも、室温をこまめに確認し、扇風機やエアコンで温度を調節するなど、暑さを避けるよう心がけましょう。外出時には、暑い日や時間帯を避けたり、涼しい服装、日傘や帽子を着用し、こまめに休憩をとることも大切です。また、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給することが重要な熱中症対策の1つです。



日頃の健康管理が熱中症対策としても重要となるので、バランスの良い食事や適度な運動、十分な睡眠をとるなど、規則正しい生活を送りましょう。

マスク着用により、熱中症のリスクが高まります

マスクを着けると皮膚からの熱が逃げにくくなったりと、気づかないうちに脱水になるなど、体温調節がしづらくなってしまいます。暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」と、マスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させることが大切です。屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できない場合には、マスクをはずすようにするなど、周囲の人との距離を十分にとれる場所、マスクを一時的にはずし、休憩することも熱中症予防のために必要です。また、マスクを着用する場合には、激しい運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給することを心がけましょう。

新型コロナウイルスだけでなく、熱中症にも注意しながら、元気に夏を乗り切りましょう！

問合せ

保健福祉課 保健推進係

☎ 4-6112



振内鉄道記念公園の蒸気機関車

この蒸気機関車（D51-23）は、戦後、樺太（現在のサハリン）で使用されていたものです。

- 平取町役場
総務課（代表） ☎ 2-2221
- まちづくり課 ☎ 2-2222
- アイヌ施策推進課
☎ 2-2341
- 観光商工課 ☎ 3-7703
- 産業課 ☎ 2-2223
- 農業委員会・土地改良区
☎ 2-2695
- 税務課 ☎ 2-2224
- 出納室 ☎ 2-2225
- 建設水道課 ☎ 2-2226
- 議会事務局 ☎ 2-2227
- ふれあいセンターびらとり
☎ 4-6111
- 町民課 ☎ 4-6113
- 保健福祉課
保健推進係・福祉係
☎ 4-6112
- 介護支援係・介護保険係
☎ 4-6114
- 児童館 ☎ 2-3026
- 子ども発達支援センター
☎ 2-3400
- 地域包括支援センター
「ほほえみ」 ☎ 2-3700

- 平取町教育委員会
生涯学習課 ☎ 2-2619
- 中央公民館 ☎ 2-2619
- 町民体育館 ☎ 2-2749
- 二風谷アイヌ文化博物館
☎ 2-2892
- 沙流川歴史館 ☎ 2-4085
- 図書館 ☎ 4-6666
- 役場振内支所 ☎ 3-3211
- 役場貫気別支所 ☎ 5-5204
- 平取町国民健康保険病院
☎ 2-2201
- 平取町社会福祉協議会
☎ 4-2267
- 平取町外 2 町衛生施設組合
☎ 2-2024
- 平取消防署 ☎ 2-2361

すずらん短歌会詠草

<p>何時みても可愛いトネツ子親のそば つかずはなれずたわむれており 中 沢 三二子</p>	<p>好天気思い通りの外仕事 家の周りも小花が咲きて 相 田 のぶ子</p>	<p>この年も小松菜うえて食べごろに 母の教えは今も忘れじ 中 原 千鶴子</p>	<p>夏の夜に空を彩る花火見て 憂いの日日も心清かに 石川原 多満代</p>	<p>空見上げ空の高みを恋う吾は 鳥の遺伝子持ちて地を這う 熊 谷 厚子</p>
--	--	---	--	--

「すずらん短歌会」入会者募集！ 希望者は、中央公民館生涯学習課社会教育係へ



まちの人口と世帯数

	(前月比)	
人 口	4,722 人	(- 11 人)
男	2,307 人	(- 1 人)
女	2,415 人	(- 10 人)
世帯数	2,455 世帯	(- 4 世帯)

※ 6 月末現在の住民基本台帳による



ホームページ QR コード